

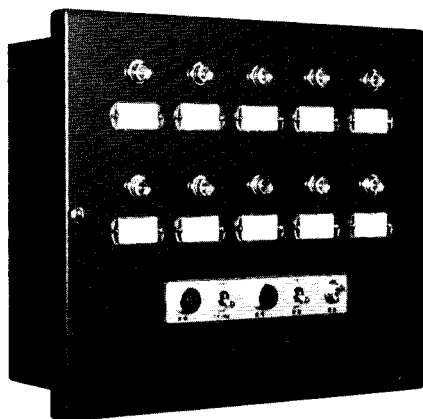
生産中止品



LSG 形集合漏電検出装置

LSG-5L・10L・15L・20L

作成日
2003/06/20
資料 HP532



LSG-10L形

高圧地絡継電装置および火災警報器を発表以来、その豊富な経験とたゆまざる研究により、更に需要家各位のご要望とご期待に満足していただける弊社独特の LSG 形集合漏電検出装置です。本器は低圧回路の多数分岐回路を有する所で、分岐回路の地絡事故を一括監視する目的に使用されます。

本資料記載内容は、全て販売当時のものです。

機種、定格 (JEM1364 準拠)

機 種	LSG-5L	LSG-10L	LSG-15L	LSG-20L	
	5 回路用	10 回路用	15 回路用	20 回路用	
検 出 ユ ニ ッ ト	LU-3L				
定格動作電流整定値	0.2 0.4 0.6A (3点切替式)				
許 容 誤 差	51% ~ 100%				
制 御 電 源 電 圧	AC100/200V				
周 波 数	50Hz/60Hz				
消費電力	AC100V	0.4A	0.6A	1.0A	1.2A
	AC200V	0.2A	0.3A	0.5A	0.6A
絶 縁 耐 力	ケース充電部間 AC1500V 1分間				
外 部 引 出 接 点	各回路ごとに a 接点 1 組				
外 部 引 出 接 点 容 量	AC100V 1A (無誘導負荷)				
重 量	9kg	12kg	15kg	20kg	

取り付け、配線および試験

- 1) 零相変流器は各分岐回路に設置し、2次端子k₁と本器の各端子との番号を合わせて接続してください。
- 2) 電源端子はAC100V用Po-P1とAC200V用Po-P2が出ていますから、必要に応じて使い分けてください。
- 3) 誤接続のないことを確認の上、電源スイッチを投入してください。電源表示灯が点灯します。
- 4) 電源を投入したら、試験ボタンを押してください。各回路の事故表示灯が点灯して、ブザーが鳴ります。復帰ボタンを押せば、動作は元の状態に戻ります。
- 5) 設置完了後の模擬試験は各分岐回路から電球などを通し、電流を制限して、接地してください。事故回路ができて、本器はその回路だけ動作します。

特 長

- 1) 増中部は樹脂ケースに納めたプラグインユニットになっていますので、保守および取り扱いに便利です。
- 2) 多数回路で同時に、または時間がずれて地絡事故が発生しても、事故を表示します。
- 3) 各回路に単独に動作に閉じる a 接点が 1 組づつ出ているので、回路のしゃ断や、遠方での事故表示に利用できます。
- 4) 本装置は手動復帰ですが、ユニット(LU-3L)の自己保持用回路を切る事により、その回路だけ自動復帰になります。

構造

本装置のケースは鉄板製で、露出、埋込は共用になっています。表面には事故表示灯とカードホルダー、電源表示灯、電源スイッチ、ブザー停止スイッチ、試験ボタン、復帰ボタンが取り付けられています。前蓋を開けると分岐回路と同数のユニット(LU - 3L)と電源部 ブザー、外部引出端子などが内蔵されています。これと零相変流器が1回路に1台ずつ組み合わされて、本装置は構成されます。

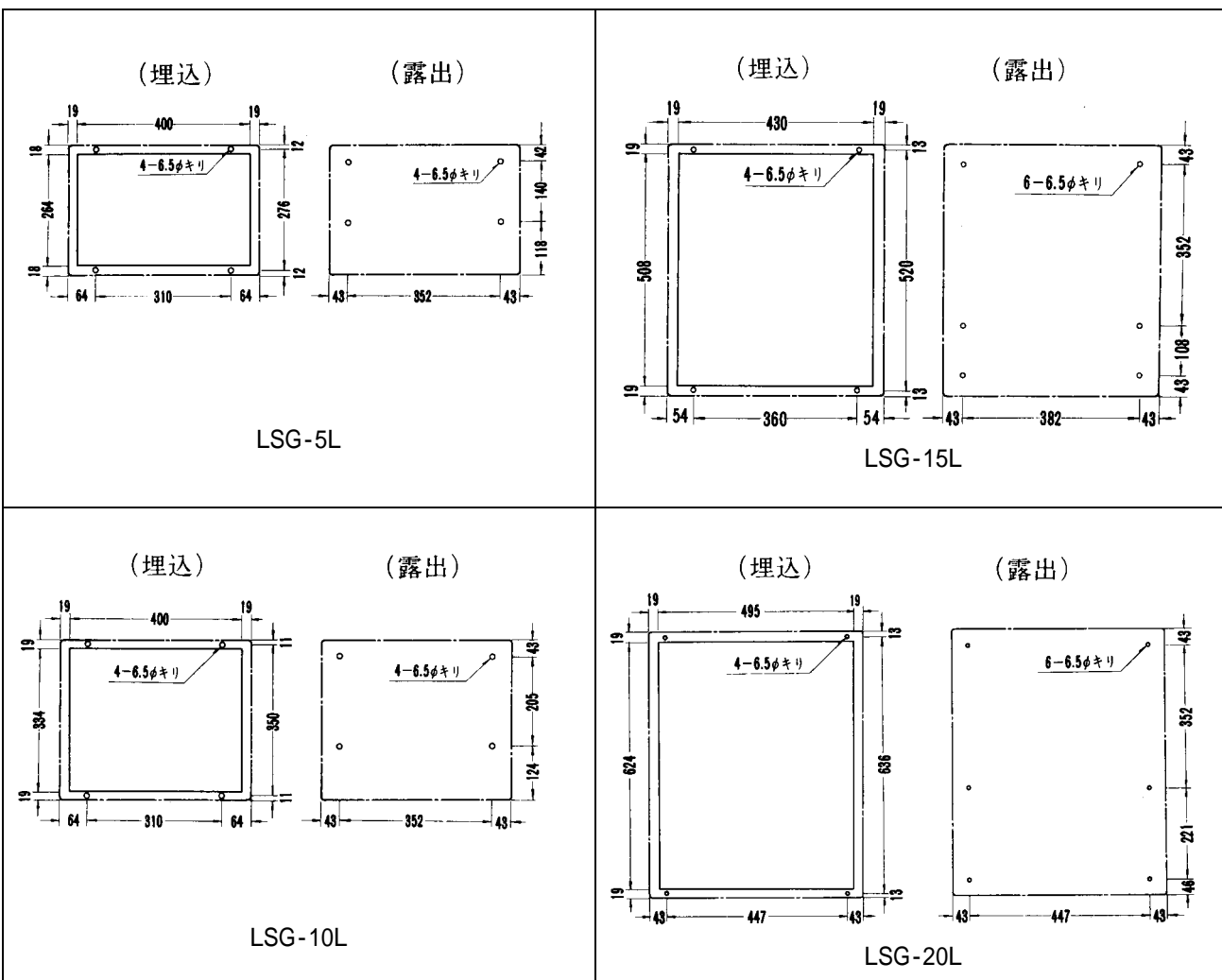
動作

零相変流器を設置した警戒電路で、地路事故が生じると、零相変流器の2次巻線に起電力が発生します。この2次出力はユニット(LU - 3L)で増巾され、ミニチュアリレーを動作させます。リレーの接点は事故表示に使用します。動作後は自己保持式なので、復帰ボタンを押すまで事故表示を続けます。

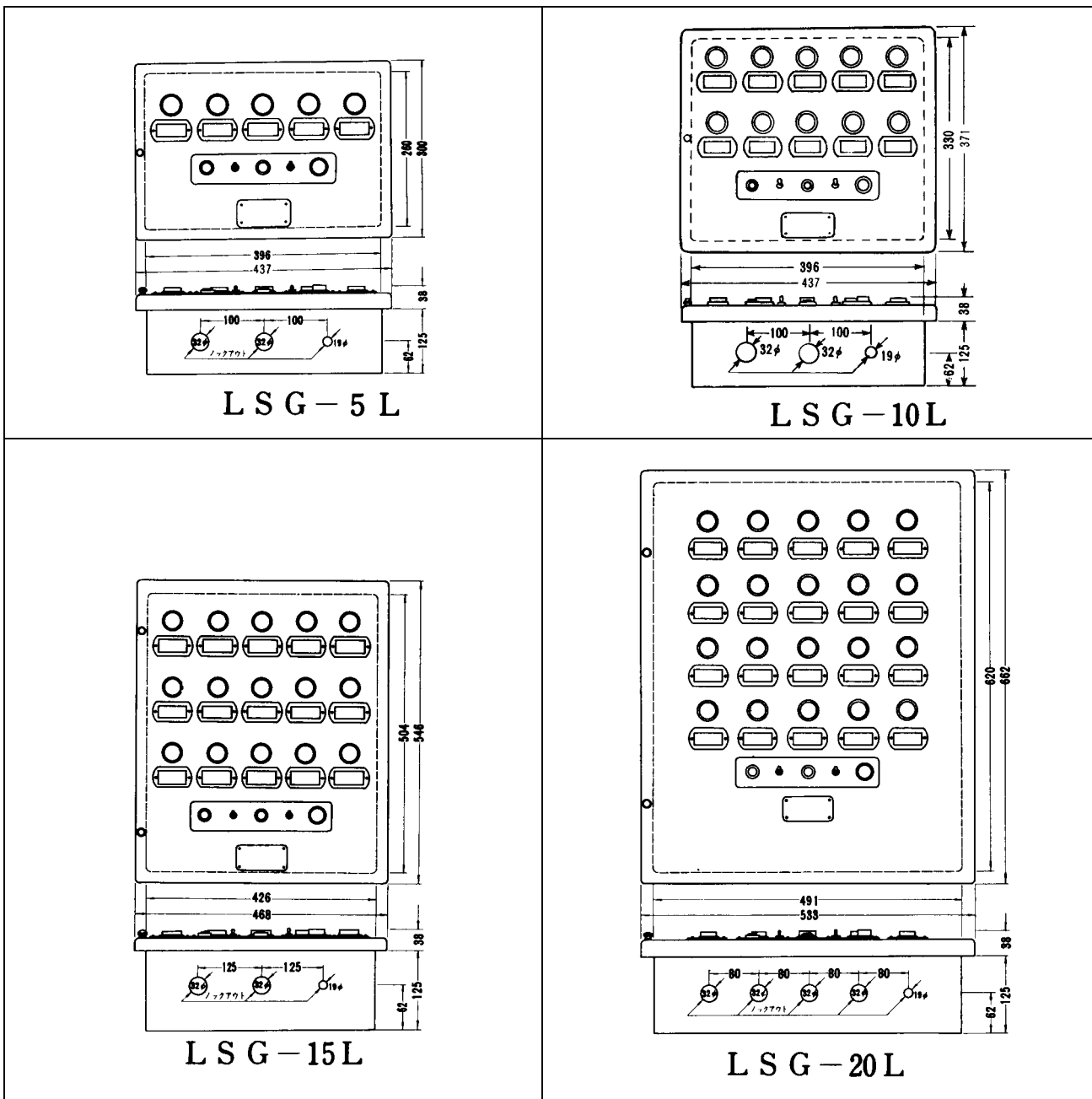
保守

- 1) 事故警報があれば、分岐回路に地絡事故が発生したのですから、回路の確認を行ってから、しゃ断してください。
- 2) 長時間しゃ断ができない場合は、ブザースイッチを切っておいてください。
- 3) 事故回路しゃ断もしくは修理が完了しましたら、復帰ボタンを押して、正常にもどしてください。その時ブザースイッチも必ずONに入れてください。
- 4) 復帰ボタンを押して、正常にもどした時、警報が出る場合は新たな事故が発生したのですから、再度調査してください。
- 5) 事故の如何にかかわらず、試験ボタンを定期的押して、本装置の動作に支障のないことを確認してください。
- 6) 各ユニットの銘板に回路名、定格電圧、定格電流を記入する項があるので、利用してください。

取り付け寸法



外形図



外部結線図

